



# 「ぜ〜んぶ おねがいしちゃう？」

文京学院大学 嶋山多加子

**対象児** 3・4・5歳児

**ねらい**

3歳児：自分でできることを自分でしようとする。

4・5歳児：自分でできることを自分からして、達成感を感じ自信をもって行動する。

つなげたい「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

※ 画面 ○ 保育者 ・ 予想される子どもの姿

〈視聴前の環境・番組への導入〉

- 「今日は『ぜ〜んぶ おねがいしちゃう?』っていうお話です。何かしら。楽しみね」と期待がもてるように話しかける。

〈視聴中〉

番組の重要なポイントは、クラスの実態に合わせて内容が理解できるよう援助する（以下参考例）

- ※「お皿並べてくれる?」「え〜」
- ※「なんだかめんどくさい」
  - ・いけないんだ ・だめだよ
  - 子どもの言葉にうなづく
- ※「誕生日だから片付けてあげる」
  - ・え〜・いいな・ほくもしてほしい
- ※♪楽ちゃん 楽ちゃん 楽ちゃんだ…♪
  - ・ずるいよ ・楽しげに聞いている
  - 「あら〜」という表情をする
- ※今日はお絵描きをしますよ
- ※お誕生日だから持ってきてあげる
  - ・「え〜」とびっくりした表情
- ※がんぺーちゃんの絵をかくてあげる
  - ・また「え〜」とびっくりした表情
- ※ありがと
  - がんぺーちゃん、ありがとうって言ってもさみしそうね」と呟く。
- ※がんぺーちゃん お誕生日だから、...
- ※待つ 僕がやる
  - 「あれ どうしたのかな」という表情をする
- ※楽ちゃんだけ楽しくない。だから自分でやりたい。
- ※♪みんなにやってもらおうより...♪
  - リズムカルに一緒に楽しむ。
- ※え〜 すごい。がんぺーちゃん

指導上の留意点

- 採光、機器の位置、隊形、などを考慮し、どの子ども心地よく視聴が出来る環境作りをしてから、言葉かけをする。
- 視聴中の子どもの反応は、その後の遊びの援助や、一人一人の子どもの理解にもつながる重要なヒントがあるので、保育者は幼児の表情が見える場所に座り、共に視聴する。
- 全体的に分かりやすい番組内容なので、子どもたちの感じ方を大切にして、がんぺーちゃんに対する子どもたちの批判的な言葉に対して、表情や動作で伝えていく。
- もしかしたら「本当に楽ちゃんかもしれない」と思いはじめると子どももいるが、その子なりの考えなので、その後の変化はどうなるのかを見守りつつ黙って聞いている。
- 園での場面の設定なので、このようなことは絶対に不自然であり得ないと子どもたちも思い始めているので、子どもと同調した表情や雰囲気で見守っていく。
- がんぺーちゃんの心の変化がでていて、この番組でここが1番大切だと思うので、他の子どもにも気づけるように聞いてみる。
- がんぺーちゃんの声のトーンと表情から、自分でやりたくなり自分ですると心地よくて、自信がもてるようになる気持ちの変化に、子どもたちが気づくようにしていく。
- 自分のことが自分で出来ると自信となり、「次の意欲につながる」気持ちの変化に気づくように言葉かけをする。

※明日は何かができるか楽しみ 〈終了〉

### 〈視聴直後例〉 ☆全年齢同じ

○「今日はおしまい、どうだった?」と言って画面を消す

### 〈視聴後例〉

#### ☆3歳児

①「面白かった」の声を受け「物語」として楽しむ。  
綺麗な画像、面白い話の展開、リズムカルな歌声。

#### ☆4・5歳児

①「自分でできるのにやってもらってずるいこと沢山あった」

②「ありがとう」って言ったのに、さみしそうだった

③「楽しんだけど楽しくないことあるんだ」と思った

○視聴後の教師の一声は、質問を縛らず子どもの言葉を受けて、広げたり深めたりしていく。年齢にかかわらず、子どもの発言の第一声は「そうね」と受け止めていく。

○日常生活で、頑張っで自分でしようとする姿を見つけたら「がんぺーちゃんみたいだね」とその姿を認め励ましていく。

○「そうね」と気持ちを受け止め、「みんなは自分でできるの、やってもらったことある?」と問いかけて体験談を話す機会にする。

○「なんでだろうね」と子どもたちに問いかけ、気持ちに変化が出てきたことに気づくような発言をとりあげ、皆に伝え広めていく。

○他の子どもにも「そうよね。どうしてかな?」と聞き「自分でやると楽しく思えること」を発見できる話し合いになるようにする。

## ★先生方へのメッセージ

幼児期の終わりまでに育ててほしい姿の「自立心」では「身近な環境に主体的にかかわり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し自分の力で行うために考えたり工夫したりしながら、あきらめずにやることで達成感を味わい自信をもって行動するようになる」とあります。この番組は、その一歩として「自分の出来ることは自分でする心地良さ」を味わってほしい、と伝えているのだと思います。画面とクラスの子どもたちをつなげているのは、現場にいらっしやる先生方。先生方のアイデアでクラスの子どもたちに合った沢山の楽しい展開が考えられると思います。

番組の「10の姿」を拾い出したら殆どありました。幼児教育は総合的な学習と言われる所以だと思います。

素敵な脚本や綺麗な画面、洗練された人形使いや舞台、大勢のプロのスタッフの方が子どものためにより良い物を作ろうと真剣に取り組んでいます。沢山活用していきたいです

## ★保護者の方へのメッセージ 愛知淑徳大学 佐藤朝美

～『ぜ～んぶ おねがいしちゃう?』を通じて「自分でできることの楽しさ」について、親子で語り合いましょ～

朝からやらなければならないことを面倒くさがる、がんぺーちゃん。このような場面はご家庭でも良くある光景だと思います。ただし、今日はがんぺーちゃんの誕生日。家族は特別な日として全部やってくれます。ざわざわ園でもルンルン、モイクンが代わりに何でもやってくれようとしています。最初は「らくちん♪」と喜んでいましたが、やがてそれが楽しくないと感じるようになります。不思議なポップブコーンから様々なものが飛び出すシーンでは、「自分でやりたい」という気持ちが強まります。がんぺーちゃんは自分の手で物事を成し遂げる喜びと楽しさを再発見!おもちゃを片付けたり、家ではお皿を片付けたりすることで、自立心を育てていきます。

お子さんと一緒にご視聴いただき、日常生活で「自分でやる」ことの楽しさや大切さについて、親子で語り合う機会にしていただければと思います。

以下のような声かけとポイントを参考にしてください。

1. がんぺーちゃんは、お誕生日にみんなから色々してもらって、「らくちんだけど楽しくない」と感じたね。なぜそう思ったのかな? (自分でやる楽しさや満足感について話し合いましょ)
2. がんぺーちゃんが、最後に自分で片付けをして、お家の人喜んでいたね。お手伝いをする時、どんな気持ちだったのかな? (家族の一員として、お手伝いの大切さについて考えてみましょ)
3. がんぺーちゃんは、自分でできることを見つけて嬉しそうだったね。自分でできることが増えるとどんないいことがあるかな? (新たなチャレンジへの意欲を高めましょ)
4. がんぺーちゃんは、いろいろなことを自分でやりたいと思ったね。うちでも、自分でできることを見つけてみようか。何かやってみたいことはある? (日常生活にも生かしていましょ)

自分で何かを成し遂げたときの達成感や喜びは、自信や自己効力感につながります。お子さんがチャレンジした時には、ぜひ褒めてあげてください。もちろん、面倒くさくてやりたくないと感じる時もあるかもしれません。何かをやってもらった時には、感謝の気持ちを伝える大切さにも触れましょ。人とのつながりを大切にしながら、自分でできることを少しずつ増やし、自立心を育てていけるといいですね。